機械の過剰投資と土への過少投資　営農改善の問題

会長　営農改善に話を移したいと思います。営農改善は機械の効率利用と土作りの二つがあると思うのですが、まず機械から。

白井　ほとんどの農家は機械に過剰投資せざるをえない状況だと思う。農協から機械を借りる方法もあるのだが、トラクターにロータリーが付いていなかったりする。機械の貸借を農協は登録方式にしたらどうか。

田沢　登録制はいいと思う。そして使用する人もきれいに使って欲しい。使ったらきれいに洗って、油ぐらいささなきゃだめだ。

会長　使う側の管理も大切ということですね。

田沢　トラクターなんか泥でどっちから乗っていいかわからないときがある(笑)。

永井　去年、大豆を落とす機械を借りようとして、二週間も前に申し込んでいたんですが、とうとう借りられず三反ほど手で落としました。

産業課長　農協も農家に制度資金を貸して機械を売るだけでなく、そういう面に力を入れて欲しいと思います。

会長　では土作りはどうでしょうか。町では稲わらの九〇%以上が煙になってしまいますが…。

永井　木場は特にそうですね。

田沢　この辺は秋が終わるとすぐ寒くなるから、わらが腐らない。だから、燃やすわけだ。

白井　畑に引き込んでたい肥にして作物を作って上がる収益の方が、勤めに出て得るサラリーよりいいはずなんだけど、明日の三百円より今日の百五十円がよく見える。

▲役場の第一委員会室で2時間半にわたって意見がかわされました

永井　わかっていても手間を考えると意欲がわかないですね。

会長　あらゆる農業問題はつまるところ意欲がないことに起因してしまいます。

泉主事　畑作田の作物を共同出荷していけば…。

浅妻課長　スウィートコーンはやや特産品になりつつあります。

白井　そういう体制になればみんなもっと土作りに精を出すんでしょうが。

がんばってほしい農業委員会　その他の問題

会長　せっかくの機会ですので他にも色々と意見を発言してください。

白井　農業委員が中心になって年に二、三回農政などについて座談会を開いて欲しい。

泉主事　座談会は座談会でいいのですが、説明会など時間を厳守してもらいたい。また、資料に目をとおしておいて欲しい。

会長　そうですね。農用地利用増進事業のときは人が集まらないので説明会を開けず、委員が一軒一軒回ったんですからね。意識が低いんでしょうか。

泉主事　中核農家担い手推進委員会の発足の理由の一つが、部落座談会に人が集まらないということがあったんです。

白井　今の農業は知らないと損することが多いのだが…。

会長　他に農業委員会に意見があればどうぞ。

白井　農業委員会もここ三、四年変わってきて、とても委員会に期待している。

泉主事　委員も農地法の番人から脱却しつつあります。

会長　委員会だけが突っ走ると圧力団体になってしまいますのでその点注意して活動していきたいと思います。

白井　あまり町政べったりもだめだし。

会長　そうです。

問題は山積みされている。だけれども…。　座談会感想

会長　曲がり角だと言われて久しい農業ですが、ますますたいへんだと思います。最後に何か思うところがあればどうぞ。

田沢　こういう機会をもっと持って欲しい。で、我々が来るのもいいが、部落にも来て欲しい。今の農政は農民にあまり親しまれていないと思う。まあ、農政にいいと思うことがないからだけれど。それから、役場と農協ががっちりと手を組むことが必要だ。

白井　農業経済がここまで落ち込み、農政と聞くといや気がさす人が多いと思う。でも、農業を続けていれば、必ず農政問題にぶつかる。もっと厳しく取り組まなければならないだろう。

間　昨年から中核農家の委員会の仲間にしてもらい勉強になっています。山田では三分の一しか農家はありません。むすこもこの土地で農業は無理だと言います。でも、私は生きがいを感じますし、これからも勉強を続けてがんばりたいと思います。

永井　農政座談会と聞いてむずかしそうだなと思ったんですが、たいへんよい雰囲気で来てよかったと思ってます。話を聞いて、みんな苦しいけれど一生懸命やっていることがわかり、意欲がわきました。これからも学ぶことが多いと思うんですが、農協に行って営農指導員に何か尋ねても、本を読んで教えている。これではだめで、もっと土を知って欲しい。

会長　農政問題は話が尽きません。まったく困難なことばかりでしょうが、少しでも農民が町が豊かになるようにがんばっていきたいと思います。

編集部から

黒埼町の農業問題点を考えるその1、その2で問題点はかなり明確になったと思います。何か解決法はないのでしょうか。今秋予定のその3では「ではいったいどうすればよいのか」をテーマにしたいと思います。

歌おう黒埼を

♪♪♪ 町民歌が決定

郷土を愛する心と、町民の融和を願い、昨年九月から町民歌の歌詞を広く募集していたところ、町内から二十三点、町外から四点、年齢も幅広く十五歳～七十三歳にわたる応募がありました。

過去数回、町民憲章、町民歌制定委員会を開き、匿名式で慎重に審議した結果、清水善夫さん(興野)の作品が入選と決まりました。なお全応募者には記念品が贈呈されます。

町では、作曲を遠藤実氏に依頼し、曲名も「黒埼よいとこ」と決まり、六月三十日符面が完成しました。七月二十二日(木)には歌手渥美二郎により、レコーディングが行われ、間もなくレコードが完成します。

十月には発表会を予定

十月二十二日には、総合体育館で発表会を開き、入選、佳作者を表彰し、歌と踊りで一日を楽しんでもらいます。八月下旬には専門家による踊りの振り付け指導会を開きますので、愛好者多数の参加をお待ちしています。

(注)時間、場所などについては八月十五日号の広報くろさきでお知らせします。

入選作　(敬称略)

入選　清水善夫(興野)

佳作　伊藤岸江(鳥原新田)

〃　内藤恭子(西川町)

黒埼よいとこ

清水善夫作詞
遠藤実作曲
遠藤実補作

信濃川から朝日が昇る
土手の黒松　光に映えて
ここは黒埼　明るい町よ
兄も姉さも声かけあって
みんな元気で　夜が明ける

ソレ　黒埼よいとこよいところ
ハアー　よいとこよいところ

二、黒埼インターの　灯が誘う
夢を咲かせる　新幹線うれし
ここは黒埼　希望の町よ
親と子供が　笑顔と笑顔
星を仰いで　歩く町

ソレ　黒埼よいとこよいところ
ハアー　よいとこよいところ

三、焼いた餅でも　親鸞さまの
心もらって　泳いだそうな
ここは黒埼　緑の町よ
緒立湯もある　一汗ながし
八幡まいりで　ごえんまん

ソレ　黒埼よいとこよいところ
ハアー　よいとこよいところ

四、弥彦山から　黄金の風が
吹けば稲穂が　大波小波
ここは黒埼　豊かな町よ
嫁と姑が　田んぼの端で
汗をふきあい　笑う声

ソレ　黒埼よいとこよいところ
ハアー　よいとこよいところ

私の視点

町長　浅妻武一郎

今年は、カラ梅雨なのか、日照りが続き、地域によっては農業用水に不足をきたし、水稲や畑作物にも干ばつによる被害が発生し、水道の節水や断水を行った所も出た。本町も一時期心配したが、大きな被害もなく、ありがたく思っている。

月日の経つのは早いもので、もうすぐ旧盆を迎える時季となった。毎年の盆と正月には民族の大移動が行われ、特に盆は墓参のため、分家した親子、兄弟、孫、曽孫などが先祖の霊を敬いに訪ずれる。また、これを機会に隣近所の知人と久方振りの面会ができ、新旧さまざまな会話がかわされ、心なごむ一時でもある。ここに故郷の味、懐しさがある。人間社会の愛情をはぐくむお盆の意義を再認識しなければならない時代を迎えたような気がする。

お盆になると、一個の人はそのまま先祖の歴史でもあると思う。そこで私は一本の樹木を例にとってみよう。樹木の根は大地の中にあって、隠れている。しかし、全体は枝葉に映して表わされている。

葉が多く繁るカボチャや朝顔は、決して大樹にはならず一年で枯れ、千年の緑をたたえる大樹は、一度にあまり伸びない。根が伸びただけしか繁らない。一年一年はわずかだ。これが千年の緑をたたえる大樹となる。

人間の場合でも、同じことがいえるのではないだろうか。このようなことから考えてみると、人間社会の過去は「根」であり、未来は「枝・葉」に当たり、人間の根となるものは親であり、祖先である。そして、その人の根は「心」ではないだろうか。

姿の見えない心を磨き、その心を大切にしてこそ、大樹が生き育つのではないだろうか。せっかくのお盆を再認識し、健康で文化的な活力のある、豊かな明るい町を建設するため、良いお盆にしたいものだ。